



千歳のやさしい言葉と文様の意味を知ってほしい

手芸講座

なかもと あつこ
中本 敦子 さん

何よりも伝えたいのは、「アイヌ文化に触れてみませんか」ということです。刺繍を学ぶうえでアイヌ文様が持つ意味もわかるよう、アイヌ語を伝えながら進めます。ただ文様に糸を通すだけでなく、「どうしてこんな文様があるのか」を学んでほしいです。千歳のアイヌ語は、他地域に比べてやさしく、やわらかいのが特徴です。同じように千歳のアイヌ民族には、女性の手仕事がマメで丁寧という特徴があります。講座の中で千歳ならではの、他地域との文化の違いもお伝えしたいです。

アイヌ刺繍は、ミシンを使わず手縫いが基本です。同じ柄でも、目の大きさや色の使い方次第で全く違ってきますから、文様にはこだわって教えています。完成したらみんなに見てもらいましょう。褒められるとやりがいもアップしますよ。

【対象】18歳以上【日程】①7/6、15、20、29、8/3、11、19、24(9:30-12:30)②9/2、9、14、20、28、10/7、14、19(9:30-12:30)【会場】蘭越生活館【申込】各クール初回の10日前まで【その他】各クール定員15人(申込順)／全8回参加できる方／女性の手仕事です

●蘭越生活館ってどこですか？



昭和37年、蘭越地区アイヌの市民皆さんのため設置した市の施設で、長い間、文化伝承・保存の拠点として活用されています。ほかの公共施設にはない「囲炉裏の間」があり、貴重な資料が大切に保管されています。

新星1丁目3-7／道道支笏湖公園線沿い 支笏湖に向かう左側、名水ふれあい公園の手前に所在 中央バス停留所「新星」前／☎📠(23)4964

アイヌ豆知識 さまざまなメディアで知られるようになった「北海道犬」。昭和12年に国の天然記念物に指定されるまでは「アイヌ犬」と呼ばれ、アイヌの狩猟で活躍していました。現在は千歳系が主流といわれており、昭和初期の千歳アイヌの熊撃ち（ハンター）とアイヌ犬の記録が残されています。



私が学んできたことを若い世代へのバトンとして役立てられたら

木彫講座

はせがわ あつき
長谷川 アツキ さん

最初に知ってほしいのは、木の香りです。そして、どの木目に沿って彫るのか、木と対話しながら進める楽しさを味わってもらいたいです。はじめは「木に触れるのが好き」、「アイヌ文様に興味がある」といった気軽な気持ちでOKです。どなたに対してもスタートは彫刻刀の持ち方から教えます。木彫は作業に没頭しがちですが、受講者同士のコミュニケーションも楽しいですよ。

私は幼少期から木を扱うのが好きでしたが、3年ほど前に孫が生まれたのをきっかけに、少しでもアイヌ文化を発信したいと思い、木彫を勉強して講師になりました。私は若い世代へバトンをつなぐために、知見を広めたいと考えています。次の世代の若者たちがアイヌの伝統技術に触れて、「自分たちがどうするか」さらなる文化の発展に向き合ってもらえたらうれしいですね。

【対象】18歳以上【日程】①6/21、28、7/5(13:00-16:00)②7/4、11、25(18:00-21:00)③12/10、17、24(9:30-12:30)【会場】①蘭越生活館、②③総合福祉センター【申込】各クール初回の3日前まで【その他】各クール定員7人(申込順)、全3回参加できる方

講座を体験して

中学生時代に平取町で、アイヌ文様の彫刻を学ぶ機会があったなど、アイヌの手工芸品は子どもの頃から身近でした。3年前に千歳の手芸講座を通じてアイヌ文様に再会したとき、ラムラム（うろこ）文様が好きだった記憶がよみがえり、木彫講座にも手を伸ばしました。日々の忙しさを忘れ没頭できる心地よさが大好きですね。

アイヌ文化には、すべてのものにカムイが宿る。だからモノを大切にするという考え方があります。その素敵な精神性や文様の美しさ・格好良さにいつまでも寄り添っていたくて、今は講師の助手を務めています。「好きなこと」を受け止めてもらえたこともうれしかったです。



アイヌ文化に寄り添いたくて講師の助手をしています

中井 牧さん
手芸講座、木彫講座を受講。昨年から木彫講座の講師補助者を務める。



古式舞踊が持つアイヌの精神を伝えたい

古式舞踊出前講座

うえの あゆみ
上野 亜由美 さん

アイヌ民族の踊りの根っこには、祈りや感謝、そして自然への敬意が込められています。例えば輪踊り。アイヌ民族は、子熊を大切に育ててから熊送りの儀式を行います。カムイの国に送られた熊は、「あの村は楽しかったな」、「おいしいものもたくさん食べさせてもらったな」と思い、再びアイヌの里に来てくれる。輪踊りはそんな循環を表していて、輪の中心がカムイの降りてくる場所なのです。踊りはシンプルですが、歌いながら踊るので、最初は難しいかもしれません。だけどその分、踊りきったときの達成感は格別です。

アイヌ民族は、「ご縁」を大事にします。皆さんとの出会いは、先祖が申し合わせしてくれるご縁。出会えた方々には踊りを楽しむだけでなく、アイヌの精神・心を知ってもらいたいと思っています。

【対象】小学生以上【日程】申し込みに応じて開催する出前講座です【会場】市内各施設【申込】実施日の10日前まで【その他】定員15人（応相談）

キロロアナンロー！

【特集】千歳のアイヌ文化学習・体験講座を楽しむ

【アイヌ語】キロロアナン ロー(Kiroroan=an ro) 楽しもう、楽しみましょう

※写真は昨年8月、道の駅で行われたアイヌ舞踊・ホリッパ（輪踊り）



令和元年の幕開けとともにスタートした千歳のアイヌ施策は、4月で7年目を迎えています。白老の民族共生象徴空間ウポポイをはじめ、国策として道内各地で展開されているアイヌ施策は今、広く世界に向けて発信されています。5月17日に大阪・関西万博で披露されたアイヌ舞踊ウレシパ モシリに、千歳のアイヌ文化伝承保存会7人の皆さんが出演しました。先人から大切に受け継がれてきた文化や風習を、多くの方に楽しんでもらいたいと願う市民の皆さんがいます。特集では、今月から市内でスタートするアイヌ文化学習・体験講座の講師の皆さんを紹介し、やさしくて、とても身近なアイヌ文化と一緒に「キロロアナン ロー（楽しみましょう）」

令和元年に制定されたアイヌ施策推進法は、アイヌを先住民族として規定し、文化振興だけでなく伝統的サケ漁再現の許可や国有林野の自然素材を共同使用する権利の取得などが明記されています。また、事業費の8割が国の交付金で、1割が地方交付税、(残りの1割が市町村負担)でまかなわれ、市町村のアイヌ施策推進地域計画を通じて包括的な施策が進められるようになりました。

千歳では、古くからアイヌ民族が千歳の近くで集落を形成していました。昭和30年代には市民の有志によりアイヌ文化を残そうとする活動が始まり、千歳アイヌ協会や千歳アイヌ文化伝承保存会の設立などを経て、文化や風習が市民の皆さんの手で大切に守られてきました。末広小学校など市内で行われている「アイヌ文化学習」はまさにその成果で、自然・生き物との共存・共生などを基本とするアイヌの考え方は、大切に今の子どもたちへと引き継がれています。

一方で、高齢化や働き方が変わり、担い手の減少は大きな課題となっています。市は、国の法制度を生かしたいとする千歳アイヌ協会の要望・意見を受け、地域計画をつくり、「アイヌ文化担い手育成事業」を行っています。アイヌ文化のすそ野を広げ、新しい担い手を育むため、舞踊、手芸、昔話、自然体験などさまざまな講座を展開しています。

大阪・関西万博でのアイヌ舞踊「ウレシパ モシリ」(画像は千歳アイヌ協会提供)

アイヌ豆知識 EXP02025 大阪・関西万博で披露された「ウレシパ モシリ」は、アイヌ民族文化財団による二百数十名の方々が踊り手として参加した地域混成のアイヌ舞踊。「あらゆるものが育てあい、支えあうことでこの世界が成り立っている」というアイヌの考え方・精神性が表現されました。



千歳アイヌ協会 会長
なかむら よしお
中村 吉雄 さん

イランカラパテ
キロロアナンロー

(こんにはちば みんなで楽しみましよう)

●そのほかの アイヌ施策

イオル再生自然素材育成事業

アイヌ民族の生活空間（イオル）は、森や川など豊かな自然に囲まれていましたが、明治期の国策で狩猟やサケ漁が規制され生活と文化は急激に損なわれました。現在、市は国と「アイヌ共用林野設定契約」を締結し、国有林野で、特定の者・時期・範囲に限りアイヌ文化に必要な林産物を採取することが認められています。しかし、昔採れていた林産物の中には、生態系が変わり見つけることが難しくなったものもあります。令和5年度から、伝統儀式で使用する「ミズキ」やアイヌ料理に使う作物などを自ら育成する取組「イオル再生自然素材育成事業」をスタートしました。市が大和地区の未利用地を提供、アイヌ協会やボランティアなど市民の皆さんが植樹や作物の育成方法を学びながら、次の世代の方が文化伝承のための素材確保に困ることがないように取り組みをはじめています。

昨年、千歳とアンカレジの姉妹都市提携55年を記念して、アラスカ先住民族の関係者が千歳を訪れました。今年は千歳から学生を含む若者たちがアラスカ先住民族の取り組みを学びに行きます。彼らがのちにその経験を必ず生かしてくれる、誇りと目的意識を持つ大人になってくれると信じています。千歳アイヌ協会は、半世紀以上にわたり文化伝承活動が続けてきま

した。アイヌの血筋にかかわらず、みんなが共存・共生することは、当協会の変わらぬ方針であり、これからもうあるべきだと考えています。今からさらに50年後の未来では、お互いを当たり前のよう認め合える、そんな社会になることを期待しています。アイヌ文化学習・体験講座は、そのための近道です。私たちと一緒に、アイヌ文化を楽しく学んでください。

◆◆◆ あとがき ◆◆◆

個人の生き方を選択できる時代です。生活環境やモノがどんどん便利になり、作り方がわからなくても美味しい料理が自宅に届く世の中では、作り手の思いやモノへの感謝を忘れてしまいがちなように思います。講師の皆さんは口をそろえて「アイヌの精神や心の置き所を知って欲しい」と話します。

共存・共生という言葉は少し難しく聞こえますが、今の時代だからこそ心に響く、もつとわかりやすく大切にしたい何かに、アイヌ文化に触れることで出会えるかもしれません。まずは一緒に、キロロアナンロー！

特集記事に関する詳細
企画部主幹（アイヌ政策推進担当）
☎(24)0126 ☎(22)8851

アイヌ豆知識 4 昭和44年発行の千歳市史に「(アイヌ文化の衣服の) 繊維は千歳川筋のオヒョウニレの皮で、水たまりなどに一週間位つけ、川にうるかして竿にかけ乾燥し、うすくはだけたものを裂いてよりをかけて糸をつくる」との記述があります。自然環境が変わってしまった今、国有林野内でもオヒョウニレの木は見つけることは困難です。イオル再生事業は、アイヌ文化と自然再生への挑戦でもあります。



先人が語り継いできた
数多くの物語が
千歳にあります

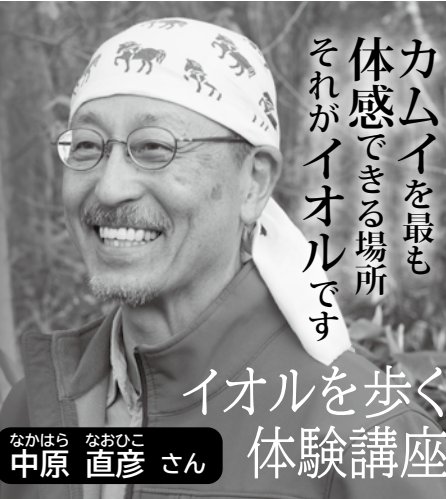
昔話講座

スズサップノ良子 さん

普段、私が一番多く歌う「カンナカムイ（雷の神様）」という神謡に、村の長が女性たちに「カンナカムイがお通りになるから、仕事の手をとめ静かにして、オリバクするように」と呼びかけるシーンがあります。オリバクとは「目上の方、尊敬する方に対して慎み深くふるまうこと」を意味し、古くから伝わる物語には、カムイに対するアイヌ民族の心構えがよく表れています。

昔話講座では、千歳に古くから伝わる物語を歌や絵本などでわかりやすく紹介し、一緒に楽しんでいただきます。初めての方でも、「ウサクマイ」、「ランコシ」など市内の地名がたくさん出てきますから、とても身近で親しみやすいと思います。受講者の皆さんには、この千歳に先人が語り継いできた物語がたくさんあることを知り、身近に感じてもらいたいです。物語を通じてアイヌ文化を学び、自分たちの宝としてほかの地域の人に紹介してもらえたら、とても素敵ですね。

【対象】 小学生以上
【日程】 6/14(① 13:00-、② 18:00-)、6/28(③ 13:00-、④ 18:00-)、7/5(⑤ 11:00-、⑥ 18:00-)、9/13(⑦ 13:00-、⑧ 18:00-) 各回 90 分
【会場】 まちライブラリー
【申込】 各回の3日前まで
【その他】 各回定員 15 人（申込順）



カムイを最も
体感できる場所
それがイオルです

イオルを歩く 体験講座

なかばら なおひこ
中原 直彦 さん

イオルとは、アイヌ民族の伝統的なくらしを支えた森林のこと、自然の中を歩き、「カムイ」を感じていただきます。カムイとは心のあり方を表す言葉で、アイヌ文化を理解するための何よりのキーワード。イオルはそれを一番体感できる場所です。森に雨が降ると、雨水が木に吸収されたり地面にしみ込んだりして、ゆっくりと川を形成していきます。いわば緑のダム。水をはぐくむ森。ここがアイヌ民族の生活空間（イオル）となります。アイヌ民族はくらしのために、イオルから産物をいただきます。採り尽くすことは控え、イオルを大切にしてきました。

参加者の皆さんには、ぜひイオルを歩き、カムイという考え方に触れてもらいたいですね。「楽しいね、きれいだね」から始まり、終わるときには、伐採や外来種によって昔と自然が変わってしまっていることや、アイヌ民族が大切にしていたものや気持ちがあわかってくる。そんなツアーを目指しています。

【対象】 小5以上（小学生は保護者同伴）【日程】 ① 6/14、② 10/11(10:00-14:00)
【会場】 蘭越～支笏湖までの国有林（アイヌ共用林野内）
【申込】 各回の3日前まで
【その他】 各回定員 14 人（申込順）、不整地を歩ける方



語順が日本語と
似ていて学びやすい
言語です

アイヌ語 Web 講座

やまだ ゆうじ
山田 雄司 さん

アイヌ語講座では、言葉を通してアイヌ文化も学びますので、文化を知りたい目的の方も大歓迎です。アイヌ語は、日本語にはない発音をしたり、アクセント次第で意味が変わってくる言語ですが、語順が日本語と似ていて学びやすい言語でもあります。2、3年ほど継続して講座を受講している人は本当に発音が上手になっています。月に数回声を出すことが大事だと実感します。

受講者にはアイヌの血筋の方もいて、自らのルーツや文化を取り戻そうという気持ちを感じられることもあり、講師としてこの上ない喜びです。

アイヌ語は消滅の危機にあると言われていますが、アイヌ民族と学者の方々で記録し研究した書物・音源を使って学ぶ若者が増えています。まさに復興のまつた中です。

アイヌの血筋がある・ないにかかわらず、アイヌをリスペクトする人々がそれを守り、次の世代に引き継ぐ。私も改めてアイヌ語を学び直す必要性和使命を感じています。北海道に生まれた者として血が騒ぐ。そんな思いです。

【対象】 Zoom 可能な方
【日程】 6/12、26、7/3、17、9/4、18、10/2、16、30、11/13、27、12/4 (19:00-21:00) 全 12 回
【申込】 6/25 まで
【その他】 定員 30 人

講座の申し込みやアイヌ関連情報はホームページから

千歳アイヌ協会・文化伝承保存会のホームページでは、直近のアイヌ文化活動や資料など豊富な情報が随時更新されています。

【各講座の申込】
ホームページ下段の「メールフォーム」から

- 「お問い合わせ内容」に、講座名、日にち（第何クールか）を記入してください。
- ホームページが見られない方は、直接メールかお電話でお問い合わせください。

《ホームページ》 <https://www.chitoseainu.com>

☎☎ (23)4964 (9時～15時)

✉ chitose.ainu.kyoukai@gmail.com



12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	講座名	
全 10 回の出前講座形式（随時受付・希望日の 10 日前まで受付）							アイヌ古式舞踊出前講座	
		●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●		アイヌ文様手芸講座	
		第2クール		第1クール				アイヌ文様彫講座
●●●●	中級者向け全 7 回（初めてのの方は受講できません）					●●●●●●●●●●	第1クール	アイヌ昔話講座
第4クール		第3クール			●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	第2クール	イオルを歩く体験講座
			●●		午前の部 午後の部	●●●●●●●●●●		アイヌ語 Web 講座
		●					●	
●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●		

各講座の年間スケジュール